

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「ロードマップ」

日本学術会議のマスタープラン及び本作業部会における評価結果等を踏まえ、以下の考え方により整理。

1. 「計画名称」、「計画概要」、「実施主体」、「所要経費」、「計画期間」：マスタープラン2014より引用。
2. 「計画期間」：■・・・建設・初期投資期間、■・・・運転・運用期間。
3. 「評価」の考え方
 - ・計画を推進する上で満たすべき基本的要件である観点として、「①研究者コミュニティの合意」、「②計画の実施主体」、「③共同利用体制」、「④計画の妥当性」、計画推進に当たったての優先度を明らかにする観点として、「⑤緊急性」、「⑥戦略性」、「⑦社会や国民の理解」を設定し、研究計画ごとに各観点について3段階（◎、○、△）で書面評価し、以下の方針に基づき分類。書面評価の結果を踏まえて、その結果の妥当性について合議で最終的な評価を決定。

【各観点における主な具体的視点】	
①研究者コミュニティの合意 ・研究者コミュニティの合意形成の状況はどうか。	⑤緊急性 ・国際的競争・協力において、我が国がリードするためには、早期に実施することが重要か。 ・早期に実施しないと、国際的に著しい不利を招くことになるか。 ・実施の遅れにより、人材の深刻な流出が危惧されることとなるか。
②計画の実施主体 ・多数の機関が参画する場合、責任体制と役割分担は明確になっているか。	⑥戦略性 ・当該分野での世界トップを確実にし、我が国の強みをさらに伸ばすこととなるか。 ・他分野への波及効果等はどうか。
③共同利用体制 ・共同利用・共同研究の実施体制が確立されているか。幅広い大学の研究者が参画できるか。	⑦社会や国民の理解 ・国際貢献や国際的な頭脳循環につながるか。 ・将来的な我が国の成長・発展につながるか。 ・計画を実施しないことによる国の損失はどうか。
④計画の妥当性 ・計画の準備スケジュール・実施スケジュールが明確になっているか。実施可能なスケジュールとなっているか。 ・建設費及び運用費は妥当か。十分検討されているか。	

- ・【評価①】計画を推進する上で満たすべき基本的な要件である①～④の観点に基づく評価結果の合計割合（％）における△の割合に基づき、以下のとおり「a」、「b」、「c」に分類。
 - ・20％未満：「a」
 - ・20％以上、40％未満：「b」
 - ・40％以上：「c」上記を原則とするが、評価結果における◎の割合（％）が30％以上の場合は、合議をした上で評価結果を一段階上位（「c」→「b」、「b」→「a」）にできることとする。
- ・【評価②】計画推進に当たったての優先度を明らかにする⑤～⑦の観点に基づく評価結果の合計割合（％）について点数化した上で、点数の高い方から上位1/4を「a」、中位1/2を「b」、下位1/4を「c」に分類。
 - ・10計画における計画の並びは、「生命科学」、「エネルギー・環境・地球科学」、「物質・分析科学」、「物理学・工学」、「宇宙空間科学」、「情報学」の順。

4. その他
 - ・「J-PARC実験施設の高度化による物質の起源の解明」に係る本ロードマップの審議における評価については、主な実施機関である高エネルギー加速器研究機構における不適切な会計処理事案の発生及び当該機構からの辞退の申し出があったことを踏まえ、ロードマップ2014の評価対象から除外することとした。
 - ・上記事案について事実関係が確定し、再発防止策が実行に移された段階において、改めて、上記計画についてロードマップの評価対象とすることの適否を確認する予定である。